

# 安房高等女学校木造校舎を愛する会

(安房南高等学校 旧第一校舎・千葉県指定有形文化財)

会報 第11号

2026. 6. 13.



【会員募集中】 年会費 1,000 円

ゆうちょ銀行 振替払込 00270-4-87431

名義：安房高等女学校木造校舎を愛する会

事務局：NPO 法人安房文化遺産フォーラム

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1

TEL&FAX 0470-22-8271 Eメール awabunka@awa.jp

千葉県指定文化財の安房南高校旧第一校舎は、1930（昭和5）年に安房高等女学校として建てられ、まもなく100歳を迎えます。2008年に安房高校と統合されて18年、使われない校舎の老朽劣化が心配されます。私たちはよりよい保存活用を目指して、「安房高等女学校木造校舎を愛する会」を発足し、草刈りなどの環境整備とともに、歴史調査を進めてきました。かねてより当会も要望していた館山市「文化財保存活用地域計画」は2年の協議会を終え、7月に文化庁の認定を得る予定です。

また、このたび日本建築学会千葉支所長の小島聡氏が共同調査に加わり、これまで不明だった木造校舎の設計者が明らかになりつつあります。当時は珍しい三角屋根の瀟洒なデザインは、同時代に建てられた安房中学校（安房高校）や千葉中学校（千葉高校）などにも見られ、千葉県技師の設計ということが分かってきました。こうした調査が進むと、文化財としての評価も一層高まります。先人から引き継いだ素晴らしい宝ものの価値を学び、未来に手渡しましょう。

## 文化財講座

### 旧安房南高校 木造校舎の設計者をさぐる

日時：2026年6月27日（土）13:30～16:00 参加費無料

会場：館山市コミュニティセンター第一集会室（館山市北条740-1）

講師：小島 聡氏（日本建築学会 千葉支所長、安房高等女学校木造校舎を愛する会 相談役）

## 東金の歴史建物探訪 バスツアー

定員 25名・要予約（会員限定）

2026年11月9日（月）集合 8:15 北条海岸P 8:30 出発～17:00 帰着予定

参加費 3,500円（見学ガイド料・会席弁当代を含む） 申込：090-6479-3498 池田

東金高校の記念館は、旧東金高等女学校の西洋作法室として明治期に建てられた県登録有形文化財です。東金市は昨年12月に「文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けており、徳川家康ゆかりの歴史的景観が残る八鶴湖や東金駅西口周辺は、大正～昭和初期の歴史建物が多い町並みや旧道が「ちば文化資産」に選定されています。これらを保存し、まちづくりに尽力している市民活動の話を伺い、学習・交流を図ります。館山から小型バスを利用しますが、途中乗車や現地合流を希望の方はご相談ください。見学地については、会報4面をご参照のうえお申し込みください。

## 草刈り

今年度も木造校舎の公開事業（見学会）は休止です。建物内には立ち入れませんが、草刈りをおこないます。刈払機や鎌などの道具は各自持参をお願いします。雨天時は翌日に順延します。

2026年10月17日（土）9:00～10:30

2027年4月3日（土）9:00～10:30



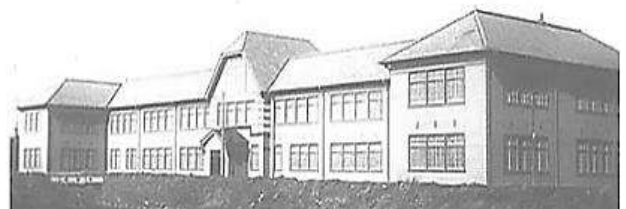
# 旧安房南高校木造校舎の設計者をさぐる

小島 聡 (日本建築学会関東支部千葉支所長 / 孝務店  
安房高等女学校木造校舎を愛する会 相談役  
NPO法人安房文化遺産フォーラム 理事)

昭和5年(1930)に建設された旧千葉県立安房南高校木造校舎は、令和12年(2030)に創建100年を迎える。本稿は、その設計者を明らかにするため、千葉県職員録や学校の校誌などを照合しながら調査した結果をまとめたものである。特に、震災復興期の千葉県において公共建築を担った千葉県工師・杉原茂の存在に注目し、安房地域や千葉市内に残された校舎との関わりを考察する。

## 1. 旧千葉県立安房南高等学校

旧安房南高校の前身である安房高等女学校は、明治40年(1907)に安房郡立女子技芸学校として開設された後、安房郡立安房高等女学校を経て県立安房高等女学校となった。明治43年(1910)に長須賀校舎が落成し、大正期に増築が行われた際には千葉県技手・後藤政治\*が工事監督を務めた記録が残る。



安房南高校旧第一校舎パンフレットより (建設当時)

しかし、大正12年(1923)の関東大震災によって校舎の大半が倒壊し、学校は壊滅的被害を受けた。その後、昭和5年(1930)に現在の地に木造校舎が新築され、延床面積5,346㎡、工費16万円余をかけた大規模な復興事業が実施された。落成式では県土木課長の東森蔵が工事報告を行っており、当時の県職員録に工師・杉原茂や技手・榎本文吉の名前が確認できる。このことから、杉原が設計あるいは工事に深く関与した可能性が高いと考えられる。

この木造校舎は、戦後に安房女子高校、安房第二高校を経て安房南高校となり、長年女子教育を支えてきた。昭和後期には老朽化に伴う改築計画が進められ、昭和54年(1979)4月に着任した中村浩校長は、「私に与えられた課題は、学校の将来を構想しながら校舎建築・環境整備する。第一棟は県南で最後まで残ってきた木造校舎なので、改修、模様替えをして管理棟として使用する。」と抱負を述べ校舎改築計画に従い、昭和55(1980)年1月には講堂・体育館の曳家工事が始まり、3月には第二校舎の解体が始まった。保存となった第一校舎(管理棟)は、平成7年(1995)に千葉県指定有形文化財(建造物)となった。平成20年(2008)の統合により学校としての役割を終えた後も、地域の近代建築遺産として高く評価されている。

## 2. 千葉県立安房高等学校

同様に、旧安房中学校(現安房高校)の校舎も関東大震災後に再建された建築である。昭和6年(1931)に完成した校舎は、延坪約1,600坪、工費15万円余を要した木造建築であった。ここでも落成式には県土木課長の東森蔵が出席し、県職員録には杉原茂らの名が確認できる。後年、校舎は老朽化により解体される予定であったが、管理棟の一部が保存移築され、現在は「無弦館」として県登録有形文化財(建造物)になっている。



旧校舎全景(昭53)「創立百年史」より



移動した旧校舎玄関「創立百年史」より

### 3. 千葉県立千葉高等学校

さらに、旧千葉中学校（現千葉高校）の調査では、昭和2年（1927）に新築された鉄筋コンクリート造の講堂と昭和6年（1931）に新築された木造校舎について、学校の記念誌『創立百年』に収録された西村房太郎校長の回顧録に、「県技師杉原氏」による設計であることが記されていた。

また、西村校長の子息による証言や棟札の確認によって、昭和6年竣工の木造校舎が杉原茂の設計であることが裏付けられた。これにより、従来不詳とされてきた千葉高校校舎の設計者が杉原であることが明らかとなった。



講堂「県立千葉中学校新築落成記念帖」より



「県立千葉中学校新築落成記念帖」より

### 4. 千葉県技師の特定

明治30年（1897）から久野節が着任する明治41年（1908）までの千葉県土木課には、建築を専門とする技師は見当たらないとの研究報告がある。久野は明治40年（1907）に東京帝国大学工科大学（現東京大学）建築学科を卒業後、千葉県技師を経て鉄道院技師となり、その後鉄道省工務局建築課初代課長として活躍する。千葉県技師時代には、県庁舎や県会議事堂及び県立佐倉中学校の設計等に関与したことが明らかとなっている。



杉原茂  
明智克夫氏所蔵



棟札 筆者撮影

また、後藤政二郎\*は大工の出身で、千葉県庁舎新築工事を機に千葉県技師となった。久野の退任後は、明治41年（1908）に東金高等女学校や大正4年（1915）には、安房高等女学校の増改築工事を担い、大正11年（1922）に退任している。

後藤の退任後に着任した杉原茂は、明治22年（1889）に岡山県で生まれ、名古屋高等工業学校（現名古屋工業大学）を卒業後、横浜市役所や東京府で技師、工手として勤務した。大正12年（1923）以降は千葉県庁に勤務し、営繕技師（工師）として戦前・戦後の公共建築を数多く担った人物である。昭和24年（1949）には千葉県土木部建設課長となり、千葉県の建築行政を支えた。これまでその名はあまり知られてこなかったが、今回の調査により、震災復興期の学校建築に大きな役割を果たした技術者であったことが浮かび上がった。

### 5. まとめ

本稿では、校誌や県職員録の照合を通して、旧県立千葉中学校（現県立千葉高校）の講堂と木造校舎が杉原茂の設計であることを明らかにした。また、旧県立安房南高校（元安房郡立安房高等女学校）木造校舎や旧安房中学校（現県立安房高校）「無弦館」についても、杉原が関与した可能性が極めて高いことが示された。ただし、決定的な証拠となる棟札や設計図などは未発見であり、今後さらに現地調査や資料発掘を進め、地域に残る近代建築を通じて、無名の技術者たちの足跡を掘り起こしていきたい。

<注記>

※ 後藤政二郎は、大正以降、政治（まさじ）と改名

## 東金の歴史建物探訪

11/9（月）視察バスツアー ⇒ 会報1面を参照ください。

### \* 東金高校 記念館（西洋作法室）・茶室・正門 < 県登録文化財 >

前身の東金高等女学校の西洋作法室と茶室、正門は 1911（明治 44）年に建築され、設計者は県の建築技師であった後藤政治です。戦後、西洋作法室は校長室としても使用され、平成 11（1999）年の改修を経て、現在は記念館として利用しています。正門は中央に 2 本の親柱、両側に控え柱を立て、門柱上端には、西洋作法室屋根のドーマー窓に呼応する意匠からなる花こう岩の笠石を乗せています。



千葉県ホームページより

### \* 八鶴亭（旧八鶴館） < 国登録文化財 >

八鶴湖ほとりの老舗旅館で、大正から昭和初期に建立した本館・新館・宿泊館・浴室棟・ビリヤード棟の 5 棟が登録されています。北原白秋や伊藤左千夫ら多くの文人墨客が滞在し、上皇（学習院中等部在籍の皇太子時代）や皇族も訪れました。料亭としても使用されましたが、台風とコロナ禍を経て営業停止。2023 年に保存会「みんなの八鶴館」を発足し、まちづくり会議や掃除&修繕ボランティア、貸室・貸しホール、クラウドファンディングでホールのカーテン新調などに取り組んでいます。



千葉県ホームページより

### \* 多田屋本社社屋（旧東金税務署） < 国登録文化財 >

多田屋は江戸末期創業の県下で最も古い書店。明治末期建築の東金税務署を、多田屋書店が 1973（昭和 48）年より利用。木造 2 階建、瓦葺。平面はコの字型で、中央に玄関を設け、外壁は下見板張で構成される洋風建築。中央正面 2 階のテラス状のスペースと、屋根の中央に設けられた三角形の屋根窓が、対称性を強調して端正な意匠となっています。



千葉県ホームページより

### \* 八百平商店建物群（旧山下邸） < 未登録 >

江戸末期に創業された雑貨商で、最盛期には市内に 4 か所の支店を持っていたといい、東金旧道文化財建物群のひとつ。明治 30（1897）年の土蔵造りの店舗をはじめ、離れや土蔵など 9 棟の建物が上総の黄金町と呼ばれた東金の様子を伝えています。かつて商品を運搬していたとされるトロッコの遺構もあります。市民有志の保存活動がおこなわれており、文化財登録を目指しているそうです。



東金市ホームページより